

7. 食肉産業とズーノーシスに対する意識調査

田中清司 ((社)長野県食品衛生協会 松本食品衛生検査所)

要旨：食肉センターは、牛豚等をと畜し解体し食肉として供給する食肉産業の原点である。と畜場の見学を希望した小学生のアンケート集計から食肉産業への意識およびズーノーシスに対する認識を各世代では、どのように捉えられているかを把握し、今後の公衆衛生と食育への普及啓発推進のため調査を行った。その結果「と畜場面への見学は、男性と女性では2倍からの相違を見た。」また動物由来感染症および感染予防法の調査では、半数近くが感染予防法を上げられず、今後感染予防対策を強力に推進すべきと判断した。

キーワード：と畜場、食肉処理施設、食肉産業、自宅の飼育動物、動物由来感染症

A. 目的

と畜場は、牛豚をと畜解体し食肉を供給する場所であるが、多数の人々はと畜現場に抵抗を感じている。前回小学6年生徒が総合的学習社会見学としてと畜場周辺と食肉処理施設を見学しアンケート調査を行った。その後保健所での集団給食調理従事者を対象として食肉衛生講習会時に同様の調査を実施したので報告する。

B. 実施方法

①調査対象者

平成20年11月17日に希望してと畜場周辺及び食肉処理場を見学した地元K村小学6年生女子8名、男子7名計15人と平成21年7月28日に長野市保健所主催の集団給食調理従事者を対象とした講習会にて食肉衛生講習を受講した151名中有効回答者女性122人、男性13人計135人の合計150人であった。

②調査方法及び調査内容

アンケート法で小学生は担任教諭に、保健所講習会は保健所担当者へ依頼し個人が特定されない形で結果の回収を行った。

調査項目は、対象者の背景、と畜及び食肉処理従事者への感想、自宅の飼育動物、動物感染症及びズーノーシス予防法に関する10項目とした。

C. 結果

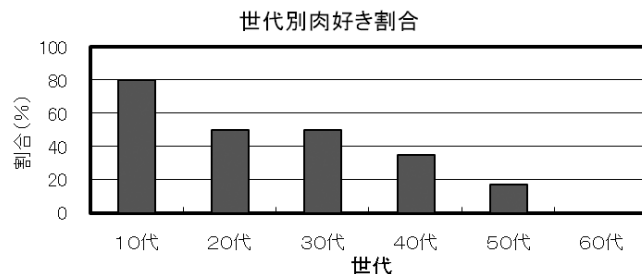
① 回答者の背景

回答者の年齢分布を見ると小学6年生の10代前半が15人(10.0%)、20代50人(33.3%)、30代30人(20.0%)、40代23人(15.3%)、50代29人(19.3%)、60代3人(2.0%)であり、多くは20歳代から50歳代に分布していた。

表1 回答者の背景

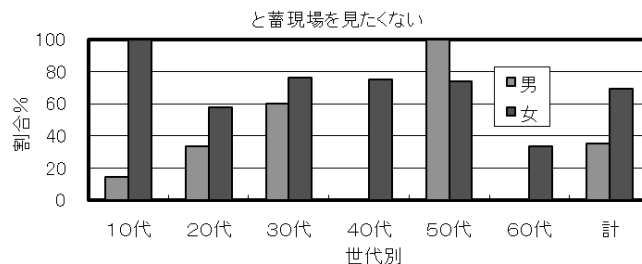
	年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
回答者 (人)	男	7	3	5	3	2		20
	女	8	47	25	20	27	3	120
	計	15	50	30	23	29	3	150
男女別 (%)	男	47	6	17	13	7	0	100
	女	53	94	83	87	93	100	87
	計	100	100	100	100	100	100	100
世代別 (%)	男	35	15	25	15	10	0	100
	女	6	36	19	15	21	2	100
	計	10	32	20	15	19	2	100

お肉の好きな年代は、10代12人(80.0%)、20代24人(48.0%)、30代15人(50.0%)と30代までは半数が肉好きであり、40代7人(30.4%)、50代5人(17.2%)、60代0人と下降が見られた。



② と畜現場について

「と畜現場を見たい」のは、男性7人(35.0%)、女性11人(8.5%)であり、反面見たくないのは、男性7人(35.0%)、女性90人(69.2%)で男性と女性では明らかな差が見られた結果であった。



「処分を見て平気かどうか」では、平気は、男性2人(10.0%)、女性3人(2.3%)で、平気でないのは、男性5人(25.0%)、女性83人(63.8%)で

あった。いつになったら見られますかでは、ずーとが見られないが男性5人(25.0%)、女性80人(61.5%)であった。

「と畜される動物への思い」は、男性は食物として必要で仕方がないが9人(45.0%)、女性はいかかわりで感謝しているが33人(25.3%)、必要で仕方がないが30人(23.1%)であり、女性は感謝の気持ちが高かった。

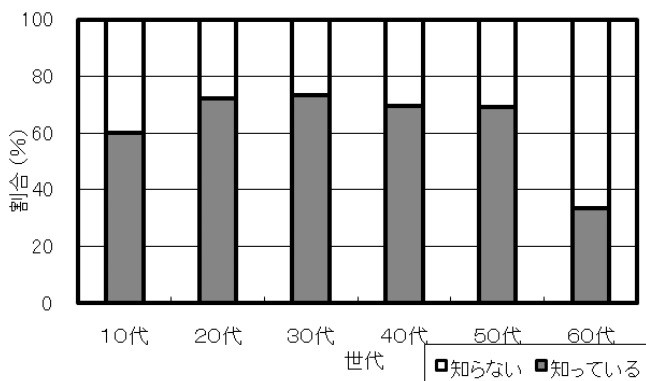
③ 食肉産業に従事する人々について

「食肉産業に従事する人々をどう思う」かでは、男性は別にどうとも思わないが、8人(40.0%)、女性は精神的に大変が36人(27.7%)、感謝が23人(17.6%)、どうとも思わないが14人(10.7%)で男性とは相違した。

④ 動物から感染する病気について

「動物から感染する病気を知っていますか」では、男性は知らないが6人(30.0%)、女性は40人(30.8%)であった。年齢では、10代6人(40.0%)、20代13人(27.7%)、30代7人(28.0%)、40代7人(30.4%)、50代(31.0%)、60代(66.7%)で認識の差は大きくないという結果であった。病名では、インフルエンザを57人(38.0%)、BSE34人(22.7%)、狂犬病33人(22.0%)の順であった。

動物から感染する病気について



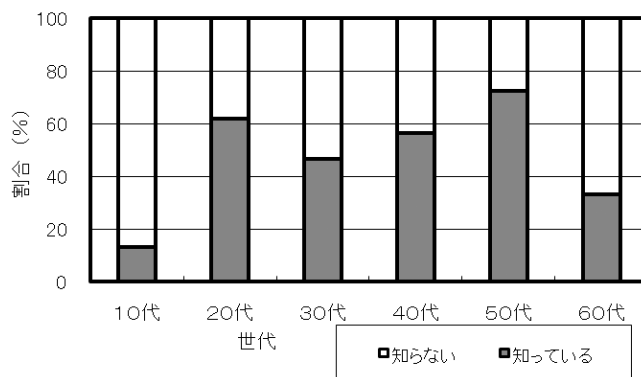
⑤ 自宅での飼養動物について

「家で動物を飼っていますか」では、飼っている男性は9人(45.0%)、女性は49人(37.7%)でした。内訳は、猫が15人(10.0%)、犬が33人(22.0%)、その他が7人(4.7%)で、犬が猫の倍でした。年齢別では、10代9人(60.0%)、20代19人(38.0%)、30代7人(23.3%)、40代12人(54.5%)、50代10人(34.5%)、60代2人(66.7%)でした。

⑥ 動物からの感染症の予防について

「動物からの感染症を防ぐ方法を知っていますか」では、男性は知らないが10人(50.0%)、手洗いを6人(30.0%)、女性は知らないが59人(45.4%)、手洗いが47人(36.2%)、予防注射が12人(9.2%)、動物とのキスが12人(9.2%)でした。

動物からの感染症を防ぐ方法



D. 考察

小学生の調査を発端として世代別に調査を行った。

対象者は、集団給食調理従事者で一般家庭と比較し食肉の扱い量も機会も多く、食肉はより身近と考えた。

若い世代ほどお肉が好きであるが、どの年代もと畜される動物に感謝しつつ現場には、過半数が抵抗を感じている。また食肉産業への思いは、男性と女性とで比較すると大きく意識の差が見られ精神的な相違を考えた。

どの年代も動物由来感染症及び感染症予防の知識、認識が低く、感染症予防の第一に上げられた手洗いは、過半数に満たない状況であり、これからの公衆衛生上の大きな課題と考えます。

E. まとめ

動物から命を頂き日々の生命を維持し得る食肉産業を通してと畜される動物への思い、そこで働く人々への気持ち、動物からの感染と予防法の調査を行った。

今回の結果から、人々の食肉を食するから動物への認識をもっと深める必要を痛感した。また動物由来感染症の普及啓発及び感染症予防を関係者と協力して推進すべきと課題が明らかになった。